

魅せる群馬の文化発信プランー第2次群馬県文化振興指針ー2018年度～2022年度 評価シート一覧(令和元年度事業評価用)

プロジェクト名	主な事業	所属	成果(結果)を示す目標・指標	単位	2019目標	2019実績	2020目標	2019決算額(千円)	2019事業結果	来年度事業評価	事業の目標	事業のアウトカム(成果)	事業のアウトプット(結果)	基本理念	審議会評価	審議会意見	
01 群馬の特色ある文化の活用と発信																	
(1) 群馬交響楽団の活用と発信																	
01	1 群馬交響楽団支援	文化振興課	① 定期演奏会平均入場者数	人	1,500	1,617	1,570	284,909	・定期演奏会を年間8回開催し、12,939人の鑑賞者があった。(10回の予定であったが、2月を中止、3月を無観客で実施。) ・移動・高校音教を82回開催し、323校が鑑賞した。 ・東京公演を1回開催し、1,273人の鑑賞者があった。(2回の予定であったが、3月の公演を中止。)	5 継続(見直しあり)	地域に根ざした楽団として、子どもたちをはじめ県民にオーケストラ演奏の素晴らしさや感動を伝え、豊かな心を涵養するとともに、日本を代表する楽団として、県内外での演奏会や情報発信を通じて、本県のイメージアップを図る。	県民が質の高いオーケストラ演奏を身近に鑑賞できる環境を整備する。	一流の指揮者、ソリストが出演する定期演奏会の開催	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	C	・群馬交響楽団支援について、新型コロナウイルス感染症の影響で事業の実施が難しい状況であり、今後の入場料収入が心配である。 ・「群馬県戦略的文化芸術創造事業」については、チャレンジングな事業。アンケートの結果からは、通常では富岡製糸場に足を運ばないような人の来場のきっかけや、これによって群馬交響楽団を知ったという意見もあり、群馬交響楽団の魅力を伝えることができたと考えられる。評価の数値的には厳しいものが出ているが、一概に落胆しなくてもよい。	
			② 移動音楽教室及び高校音楽教室の鑑賞校数	校	-	323	-					事業の県内外への情報発信だけでなく、県内各地への誘客を通じて波及的な経済活性化を目指す。	子どもたちに本物のオーケストラ演奏に触れる機会を提供する。				移動音楽教室、高校音楽教室の開催
			③ 東京公演の鑑賞者数	人	2,050	1,273	2,100					地域の住民や地域の芸・産学官と連携、協働し、持続的な文化経済活動の実現を目指す。	トップクラスの地方オーケストラとして、活動範囲を県外に広げる。				東京公演の開催
	2 群馬県戦略的文化芸術創造事業	文化振興課	① 参加者数	人	9,440	4,780	31,560	65,257	・世界遺産「富岡製糸場」や日本遺産「里沼」と、群馬交響楽団を組み合わせ、それぞれの価値を高めるとともに、新たな魅力を創出することができた。 ・また、高崎芸術劇場で開催した群馬交響楽団と千住明氏とのコンサートでは、来場者の音楽文化に対する意識向上を図ることができた。 ・課題としては、各事業で来場者数はあったものの、経済波及効果に大きな影響を与えていないことから、国内外からの来県を意識し、宿泊ができるプラン等の用意が求められる。 ・本事業は3年計画であり、次年度が最終年度となることから、これまでの課題を踏まえた事業展開を意識していく必要がある。 ・2月、3月の公演3本中止	3 拡充	群馬交響楽団、世界遺産「富岡製糸場」と絹産業遺産群及び県内に所在する文化施設等は、それ自体が単体で十分な歴史的・文化的価値をもつものであるが、これら多様な文化資産を組み合わせることで、これまでにない新たな魅力を創造・発信し、交流人口の増加につなげるとともに、郷土に対する県民の愛着及び誇りの醸成を図る。	会場の規模に合わせた参加者数の確保	群馬の特色ある文化の磨き上げと、最新技術などを組み合わせる魅力的な事業を展開する。	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備、5 文化資産の保存及び活用、6 情報発信及び文化交流の促進	C	「ぐんますき焼きアクション」については、目標値である「賛同企業・団体の登録数」は達成しているし、イベントへの参加者数も多いが、群馬県＝「すき焼き」というイメージは、県内外の一般の人々に浸透していないと感じる。県民がどのように理解しているのかを図る指標として、これでよいか検討する必要がある。	
			② 参加者数(外国人)	人	470	208	1,550					事業の県内外への情報発信だけでなく、県内各地への誘客を通じて波及的な経済活性化を目指す。	国内外から来県してもらうために、各事業について有効な情報発信を行い、誘客につながる広報を行う。				
			③ 経済波及効果	千円	227,000	46,185	503,000					地域住民や地域の芸・産学官と連携、協働し、持続的な文化経済活動の実現を目指す。	コンテンツづくりをとおして、将来にわたり持続的に各分野が協働できる枠組みづくりを行う。				
(2) 「上毛かるた」の活用と発信																	
01	3 上毛かるた活用事業	文化振興課	① 上毛かるたの販売冊数	冊	19,000	12,964	19,000	20,372	・「上毛かるた」の発行・販売並びに『上毛かるた』で見つける群馬のすがた(副読本)及び『上毛かるた』ゆかりの地文化めぐり(ガイドマップ)の販売を行った。【副読本:1,024冊、ガイドマップ:1,157冊】また、上毛かるたの著作権利用申請について許諾を行った。 ・上毛かるた競技大会を県教育委員会及び(公財)子ども会育成連合会と共催した。 ・さらなる上毛かるたの活用を図るため、英語版上毛かるた10,000部を制作し、県内小中学校へ配布した。 ・少子化が進む中、上毛かるた等の販売方法に工夫が必要である。	4 継続	上毛かるたを通じて、歴史と先人たちの思いを子どもたちをはじめ広く県民に知ってもらい、その活用を図ることにより、郷土への愛着や群馬の歴史や文化に対する誇りを醸成する。	上毛かるたをいつでも入手できる。	上毛かるたの発行、販売	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	C	「ぐんますき焼きアクション」については、目標値である「賛同企業・団体の登録数」は達成しているし、イベントへの参加者数も多いが、群馬県＝「すき焼き」というイメージは、県内外の一般の人々に浸透していないと感じる。県民がどのように理解しているのかを図る指標として、これでよいか検討する必要がある。	
			② 上毛かるた副読本及びガイドマップ販売冊数	冊	-	2,181	-					上毛かるたの内容を理解する。	上毛かるたに込められた史跡や人物などについて再認識を促す副読本及びガイドマップの発行、販売				
			③ 上毛かるた利用許諾件数	件	(2022)150	110	(2022)150					上毛かるたを活用することができる。	上毛かるたの利用許諾				
(3) 群馬の食文化の活用と発信/群馬の温泉文化の活用と発信																	
01	4 群馬の魅力発信	メディアプロモーション課	① フェイスブック記事「いいね！」数	件	2,500	1,987	-	503	「おっきりこみプロジェクト」について、スタンブラリーの開催(68店舗参加)、群馬DC全国宣伝販売促進会議におけるブースの開催、フェイスブックでの発信等を行い、広くPRを行った。	1 廃止・休止・終了	本県の郷土食である「おっきりこみ」を通じて、本県の魅力を発信しイメージアップを図る。	おっきりこみに関する情報発信の強化	おっきりこみプロジェクト公式フェイスブックでの発信	4 文化の継承及び発展を担う人材・団体の育成	B	「ぐんますき焼きアクション」については、目標値である「賛同企業・団体の登録数」は達成しているし、イベントへの参加者数も多いが、群馬県＝「すき焼き」というイメージは、県内外の一般の人々に浸透していないと感じる。県民がどのように理解しているのかを図る指標として、これでよいか検討する必要がある。	
		ぐんまブランド推進課	② ぐんま・すき焼きアクション賛同企業・団体の登録数	社	210	440	-	10,732	・2019年6月30日高崎もてなし広場において「オールぐんまdeすき焼きまつり」を開催、2500人が来場した。この時期ならではの「夏すき」を作って食べるコーナーには144人が参加した。 ・今後、県産農畜産物の魅力の結晶として、すき焼きをはじめ様々な料理を消費者に提案し、群馬県産を買ってみたい、食べてみたいと考える消費者を増加させていく。	5 継続(見直しあり)	すき焼きの食材を全て県産食材でまかなえるすき焼き自給率100%の県として、行政だけでなく、県民と一緒にすき焼きを通じた県産農畜産物のPRすることにより、「ぐんまのすき焼き」の定着による県産農畜産物の魅力の理解を図る。	ぐんま・すき焼きアクション(群馬県産農畜産物の魅力)の理解	ぐんま・すき焼きアクション賛同企業・団体の募集	6 情報の発信及び文化交流の促進			
		文化振興課	③	-	-	-	-	-	-	古くから受け継がれてきた湯治の歴史や祭りなど、温泉文化を魅力的な観光資源として活用するとともに、その価値を県内外へ発信する。	-	-	-	5 文化資産の保存及び活用			

魅せる群馬の文化発信プランー第2次群馬県文化振興指針ー2018年度～2022年度 評価シート一覧(令和元年度事業評価用)

プロジェクト名	主な事業	所属	成果(結果)を示す目標・指標	単位	2019目標	2019実績	2020目標	2019決算額(千円)	2019事業結果	来年度事業評価	事業の目標	事業のアウトカム(成果)	事業のアウトプット(結果)	基本理念	審議会評価	審議会意見
02 東国文化の魅力発信																
(1) 東国文化の魅力発信																
5	東国文化周知事業	歴史文化遺産室	① 中学校の歴史的分野の授業において、東国文化副読本を活用した学校の割合	%	100.0	98.8	100.0	38,549	市町村と連携した「群馬古墳フェスタ」の開催、中学1年生向けの「東国文化副読本」の配布、「HANI-本」「HANI-アプリ」の制作、観光部局と連携した歴史文化遺産ツアー造成等を行った。群馬古墳フェスタ:約28,000人、歴史文化遺産ツアー(民間旅行会社):30回予定→新型コロナウイルスの影響により、中止または延期	2 縮小・一部廃止・統合	東国文化の中心地であり、東日本最大の古墳大国である本県が誇る歴史文化遺産についての周知を進め、再認識を促すとともに、観光振興やイメージアップ等での活用を図る。	多くの県民が本県の歴史文化遺産への理解を深める。	中学校での「東国文化副読本」活用による学習支援	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備/5 文化資産の保存及び活用/6 情報の発信及び文化交流の促進	C	
②	東国文化の認知度	%	80.0	67.8	83.3	古墳や遺跡、歴史系博物館を訪れる機会が増加する。	古墳や遺跡を会場としたイベントの開催									
③		-	-	-	-	県外在住者が古墳や遺跡への来訪を目的に来県する。	観光DMOと連携した誘客促進									
(2) 世界の記憶「上野三碑」の魅力発信																
6	「世界の記憶」上野三碑周知事業	歴史文化遺産室	① 上野三碑のユネスコ「世界の記憶」登録	-	-	登録(2017年度)	-	3,000	H31年3月付で「上野三碑世界記憶遺産登録推進協議会」を解散し、新たに「上野三碑普及推進会議」(事務局:高崎市)を設置。上野三碑の価値や魅力を広く県民に知ってもらうため、記念連続講演会を2回開催した。	4 継続	ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の価値や魅力の周知を進め、観光振興やイメージアップ等での活用を図る。	県外での上野三碑の認知度が高まる。	各種広報媒体を活用した県内外への周知	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備/5 文化資産の保存及び活用/6 情報の発信及び文化交流の促進	C	
②	上野三碑一般公開来場者数	人	800	871	800	上野三碑を訪れる機会が増加する。	県内歴史文化遺産と連携したスタンプラリーの実施									
③		-	-	-	-	多くの県民が上野三碑の世界的な価値や魅力についての理解を深める。	シンポジウムや講演会の開催									
(3) 「偲ぶ毛の国」群馬の魅力発信																
7	史跡上野国分寺跡整備	文化財保護課	① 報告書等の作成	-	整備基本計画準備	整備基本計画準備	調査報告書作成	11,811	・追加の発掘調査(築垣基部の版築、堂塔基壇造成のための土取穴等を確認) ・整備方法について、しっかり検討していく。	5 継続(見直しあり)	本県を代表する史跡である上野国分寺跡について、発掘調査のデータを元に、わかりやすい整備を行い、歴史的価値を磨き上げ、全国に情報発信してその価値を広めるとともに、群馬のイメージアップを図り、地域作りや観光振興にもつなげる。	わかりやすい史跡整備を、計画的に実施する。	予算を計画的に確保する。	5 文化資産の保存及び活用	C	・「偲ぶ毛の国」群馬の魅力発信について、これら文化財について、東京の人から見ると認知度が低い。
②		-	-	-	-	歴史的価値を磨き上げるため、発掘調査を実施して、歴史的根拠を明確にする。	調査報告書を作成し、歴史的価値を明確にする。									
③		-	-	-	-	史跡の価値を内外に情報発信し、観光振興を図る。	発掘調査現地説明会や講演会を実施して、歴史的価値の普及啓発に努める。									
8	文化財保存事業費補助特別枠	文化財保護課	① 補助事業件数	件	20	18	14	46,937	国指定文化財補助:18件	4 継続	全国に誇りうる国指定文化財の歴史的価値を磨き上げ、その価値と魅力を情報発信し、群馬のイメージアップを図るとともに、地域作り、観光振興にもつなげていく。	国指定文化財を良好な状態で保存し、活用を図るため、所有者(市町村・法人・個人)が実施する保存修理等の事業を補助する。	予算を計画的に確保する。	5 文化資産の保存及び活用	C	・上野国分寺跡地について、国分寺は全国にあるが、上州の国分寺は他の県にない特殊性があるのか。もしあるのであれば、その点を押し出してアピールしていけばよいのではないか。
②		-	-	-	-	文化財の保存・修理・整備事業に積極的に補助するとともに、修理・整備方法等について指導助言を行う。	計画的な修理・整備事業が可能となるよう、文化庁や地元市町村、所有者等としっかり連携する。									

魅せる群馬の文化発信プランー第2次群馬県文化振興指針ー2018年度～2022年度 評価シート一覧(令和元年度事業評価用)

プロジェクト名	主な事業	所属	成果(結果)を示す目標・指標	単位	2019目標	2019実績	2020目標	2019決算額(千円)	2019事業結果	来年度事業評価	事業の目標	事業のアウトカム(成果)	事業のアウトプット(結果)	基本理念	審議会評価	審議会意見
	9 古墳・金井東裏遺跡情報発信事業	文化財保護課	① 冊子の累計販売数 a:群馬県古墳総覧 b:ぐんま古墳探訪	冊	a:1,200 b:2,000	a:1,335 b:3,249	a:1,350 b:3,500	795	・小学校教員向けガイドブック『古墳学習プログラム』(4000部)を刊行し、県内全小学校、全市町村教育委員会に配布。 ・スマートフォン用アプリ「古墳探訪」を運営管理。 ・平成29年に刊行した『群馬県古墳総覧』、『ぐんま古墳探訪』両冊子を継続して委託販売した。 ※目標値を変更	4 継続	学校教育への働きかけや、展示会や冊子等で古代東国の文化的中心であった群馬の歴史や文化の価値を再認識し、郷土に対する誇りの形成や、群馬県の知名度向上につなげる。	群馬の古墳の価値を理解してもらう。	群馬県古墳総覧・ぐんま古墳探訪を発行、販売	4 文化の継承及び発展を担う人材・団体の育成 6 情報の発信及び文化交流の促進	B	・「群馬古墳総覧」や「ぐんま古墳探訪」などの冊子の売れ行きが好調であるという点から見ても、地味なテーマであっても、おもしろければみんな関心を持つということが数値にも出ている。
			②	-	-	-	-					群馬の古墳を来訪してもらう。	スマートフォン用アプリを公開・運営。			
			③	-	-	-	-					古墳学習を取り入れた小学校授業を支援する。	古墳学習プログラムを作成し、県内小学校に配布する。			
	10 観音山古墳保護管理運営	文化財保護課	① 見学者数	人	15,000	11,903	15,000	4,352	歴史博物館と連携して、見学者の増加を図っていく必要がある。 関越道からのアクセスがスムーズであり、東京等県外からの小学校の途中見学地としての利用が見込まれる。 観音山古墳出土品の国宝指定を契機に、情報発信に力を入れていく。	4 継続	史跡観音山古墳の歴史的価値を学校教育や生涯学習等を通して県民に認識してもらい、郷土に対する誇りや愛着の育成を図る。また、県外にも情報発信し、価値を広めるとともに、群馬のイメージアップを図り、地域作りや観光振興につなげる。	史跡の環境整備・維持管理等を適切に実施する。	予算を適切に確保する。	5 文化資産の保存及び活用		
			②	-	-	-	-					史跡についての県内外に情報発信し、郷土学習の場として利用促進を図る。	県内の小中学校・高等学校等だけでなく、県外の小学校等への情報提供とともに、生涯学習の場としても発信していく。			
	11 上野国分寺跡保護管理運営	文化財保護課	① 見学者数	人	10,000	21,582	10,000	6,245	・国分寺歴史講座の開催や発掘調査現地説明会、国分寺まつり等、地域と連携しながら広報・普及活動を実施した結果、近年見学者数が増加傾向にある。 ・郷土学習・生涯学習の場としてしっかり情報発信を継続し、環境整備や維持管理についても地元の協力をいただきながら、更なる見学者数の増加に努める。	4 継続	上野国分寺跡の歴史的価値を学校教育や生涯学習等を通して県民に認識してもらい、郷土に対する誇りや愛着の育成を図る。また、県外にも情報発信し、価値を広めるとともに、群馬のイメージアップを図り、地域作りや観光振興につなげる。	史跡の環境整備・維持管理等を適切に実施する。	予算を適切に確保する。	5 文化資産の保存及び活用		
			②	-	-	-	-					史跡についての広報・普及を積極的にを行い、郷土学習の場として利用促進を図る。	県内の小中学校・高等学校等だけでなく、生涯学習の場としても情報発信していく。			
			③	-	-	-	-					国分寺歴史講座の開催や発掘調査現地説明会の実施、また地域行事と連携した活用を図る。	地元支援団体等と協力して、国分寺まつりと連携したイベントを開催する。			

03 世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の保存と活用

(1)世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の保存と活用/日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」/ぐんま絹遺産の保存と活用

	12 世界遺産・ぐんま絹遺産の継承	歴史文化遺産室	① 世界遺産構成資産を複数訪れたことのある県民の割合	%	40	76		183,011	世界遺産を将来の世代に確実に引き継ぐため、構成資産で行われた保存修理に対し事業費を補助した。また、世界遺産センターが完成し、常時世界遺産等の価値を総合的に伝える体制が整った。(ただし、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、開所は3月から令和2年6月1日に延期)	4 継続	世界遺産やぐんま絹遺産の保存整備を進め、その価値を発信し、活用と継承への意識醸成を図る。	世界遺産構成資産・ぐんま絹遺産の価値を知り、愛着を持つ。	世界遺産・ぐんま絹遺産の現地を訪れる。	5 文化資産の保存及び活用	B	・学校キャラバンが県内の広い地域で実施され、若い世代への普及活動が進んでいると考えられる。この活動を継続発展していくべきである。
	13 世界遺産・ぐんま絹遺産の普及啓発等	歴史文化遺産室	① ぐんま絹遺産の認知度	%	60	83		16,539	解説ボランティア等による年間を通じた普及啓発活動、民間企業等と連携したイベント実施等により、絹遺産への理解促進を図った。また、市町村と連携し日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」の周遊促進のため旅ガイドWebページを作成した。	4 継続	市町村、民間企業、民間団体と協働した世界遺産・ぐんま絹遺産の活用・発信により、全県に広がるぐんま絹遺産への関心を高め、地域活性化を図る。	世界遺産・ぐんま絹遺産の関心を深め、イベント等に参加する。	世界遺産・ぐんま絹遺産に係る民間企業・団体と連携した普及イベント開催、民間団体の活動支援等を行う。	6 情報の発信及び文化交流の促進		

魅せる群馬の文化発信プランー第2次群馬県文化振興指針ー2018年度～2022年度 評価シート一覧(令和元年度事業評価用)

プロジェクト名	主な事業	所属	成果(結果)を示す目標・指標	単位	2019目標	2019実績	2020目標	2019決算額(千円)	2019事業結果	来年度事業評価	事業の目標	事業のアウトカム(成果)	事業のアウトプット(結果)	基本理念	審議会評価	審議会意見
04 県民芸術祭の充実と展開																
(1) 次代を担う人材の発掘・育成／メディア芸術の充実と展開／県民芸術祭の充実と展開																
14	県民芸術祭の開催	文化振興課	① 県民芸術祭及び市町村等主催の各種文化行事への参加者	人	420,000	345,361	430,000	42,112	県展(美術・書道・写真・華道・大茶会)、県文学賞、GUNMAマンガアニメフェスタ、県民音楽のひろば、小中学校伝統芸能教室等を開催した。令和2年3月は、新型コロナウイルス感染症予防のため、開催できない事業があった。直近の課題として、新生活様式に対応した事業展開が求められており、実施方法を再検討する必要がある。	5 継続(見直しあり)	優れた文化芸術鑑賞の機会を提供するとともに、県民参加による文化芸術の制作事業等を通して、本県文化の担い手育成や子どもたちの豊かな心を育み、併せて個性豊かな新しい県民文化の育成・創造を目指す。	県民芸術祭及び市町村等主催の各種文化行事への参加者数の増加	次世代の担い手である子どもたちが、文化芸術活動に親しみきっかけづくりを行う。また、県民が日頃の創作活動の成果を発表する機会の提供	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	C	①新型コロナウイルス関係 ・事業が実施できない現状において、目標値が適当か検討が必要。 ・市町村の文化事業や各文化団体の事業が実現できるようなバックアップ体制について検討が必要。 ・文化活動をしている人たちが何を必要としているか、小さな声をすくい上げるような仕組みが必要。 ・各文化団体が、公演等を実施した場合、出演者、来場者などから感染者が出た場合、責任の所在はどのようなのかなど、不安を抱えている。 ②その他 GUNMAマンガ・アニメフェスタでは、受賞者がその後の仕事などに結びつくような状況にないため、作品を県内外に周知するなど必要ではないか。
			② 県民芸術祭参加者数	人	204,000	209,237	208,000					県民芸術祭のすそ野を広げ、充実を図る。	新たな創造活動を促す取組を推進する。			
05 県立文化施設等の発信力強化																
(1) 県立美術館・博物館																
15	近代美術館	文化振興課	① 入館者数	人	100,000	74,224	100,000	203,819	・企画展は、くまのパディントンTM展、長島有里枝×竹村京「まえといま」、没後70年森村西三とその時代、西洋近代美術にみる神話の世界の4本を開催した。 ・コレクション展示では、所蔵作品の展示替(概ね2月に1度、山種記念館は概ね1月に1度)を行った。 ・教育普及活動では、46校の学校を受け入れるとともに、子どもアートツアー、作品解説会、子ども+大人+夏の美術館、美術館アートまつりなどを行った。 ・フェイスブック、ホームページをはじめ、美術館ニュースの発行などにより情報発信を行った。 ・将来の作品収集や企画展につなげるため、調査研究を行った。	4 継続	所蔵している本県ゆかりの作家たちの作品、国内外の近・現代美術、日本画などのコレクション展示や、優れた美術の鑑賞機会を提供する企画展、若い作家のための公募展の開催、作品解説・講演会、子供向けワークショップをはじめとした教育普及事業など、様々な活動により、県の美術振興を推進する。	企画展の質の向上及び入館者数の維持	様々な地域と時代の美術に触れる魅力的な企画展・メリハリのあるコレクション展示の開催	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	・中学生以下の入館料は無料だが、高校生、大学生は少し安い有料。無料にした方が長い目で見るとプラスになるのではないか。	
			② 教育普及事業参加者数	人	12,000	10,109	12,000					教育普及事業の質の向上及び参加者数の維持	美術の楽しさを感じる普及事業の充実・学校教育との連携強化			
			③ 来館者満足度	%	90	95	90					来館者の満足度の水準確保	調査研究の成果を活かした展示・教育普及をはじめとする各種事業の実施			

魅せる群馬の文化発信プランー第2次群馬県文化振興指針ー2018年度～2022年度 評価シート一覧(令和元年度事業評価用)

プロジェクト名	主な事業	所属	成果(結果)を示す目標・指標	単位	2019目標	2019実績	2020目標	2019決算額(千円)	2019事業結果	来年度事業評価	事業の目標	事業のアウトカム(成果)	事業のアウトプット(結果)	基本理念	審議会評価	審議会意見
16 館林美術館	文化振興課	① 入館者数	人	55,000	57,722	55,000	159,647	159,647	「ピカソ展ゲルニカ[タピスリ]をめぐって」は、館林美術館と近代美術館の所蔵作品のこれまでの研究成果を発展させ、他館の作品を有効に活用しながら当館にしかできない展覧会を開催し、部長表彰をいただいた。多彩な関連イベントの成功に加え、学校訪問数が近年になく多かったのも特筆すべき事柄である。	4 継続	東毛地域において、より多くの県民に美術作品鑑賞の機会を提供し、美術振興をより一層推進する。	年間入館者数の向上	質と内容の充実を備えた魅力的な企画展の開催、また民間企業との共催や巡回展の誘致	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値に対し実績値が良好な結果が得られた場合、次年度の目標値を少し高く設定してもよいのではないかと。 ・東京から群馬県内の美術館・博物館に行こうとすると、電車利用の場合行きにくい場所もある。県立美術館・博物館をいくつかつないで巡るようなバスがあるとよい。 ・県立美術館・博物館の企画展などのタイトルについて、一般の方に届くようなタイトルを選ぶように工夫している。また、公立・私立の垣根を越えて連携したり、お客様がSNSを多様している現状を鑑みてそのようなツールでの発信をするなど、工夫と努力が見て取れる。 ・アウトカムの設定の仕方について、質的な部分での設定について検討してほしい。
		② 参加者数(「上記①」の内数)	人	6,000	6,178	6,000						教育普及参加者数の向上	教育普及事業の充実・学校教育連携及び地域連携の強化			
		③ 入館者満足度	%	80.0	99.0	80.0						将来の企画展示に結びつく調査研究の実施による入館者満足度の向上	前年度までの調査研究の成果を活かした企画展示の開催による入館者満足度の水準確保			
	17 歴史博物館	文化振興課	① 入館者数	人	100,000	110,152	100,000	189,710	189,710	今年度は、開館40周年を迎え、3回の企画展と特別収蔵品展、4回のテーマ展示を実施した。特に企画展では「新田義貞」「埴輪」「土偶」と、知名度の高い資料をテーマとし、前年度比124%の入館者数を実現した。3月には当館展示資料「綿貫観音山古墳出土品」の国宝答申があり、2020年度はこれらをより積極的に活用した情報発信を実施していきたい。	5 継続(見直しあり)	群馬県地域の歴史の変遷と発展に関する資料を収集し、保管し、展示して、県民の利用に供し、その教養・調査研究に資するために必要な事業を行い、もって、教育・学術及び文化の発展に寄与する。	入館者数の向上	民間企業との共催や巡回展の誘致も含めたメリハリのある魅力的な企画展の開催	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	
			② 教育普及事業参加者数	人	40,000	41,897	40,000						教育普及参加者数の向上	教育普及事業の充実・学校教育連携の強化		
			③ 来館者満足度	%	95	95	95						来館者満足度の向上	調査研究の成果を活かした展示の実施による入館者満足度の水準確保		
	18 自然史博物館	文化振興課	① 入館者数	人	250,000	267,860	250,000	310,899	310,899	年3回の企画展を計画したが、新型コロナウイルスの感染予防のため令和2年3月から臨時休館した。2月までは昨年度並みの入館者数を確保することが出来た。今後、開館に向け感染予防策を徹底し、安心・安全な博物館として入館者を受け入れていきたい。普及事業等においても同じく安全なメニューの開発を進めたい。	3 拡充	来館者が参加体験をとおして楽しみながら自然を愛する心を育て、人と自然との関わりを理解し自然に親しみきっかけとなる。	入館者数の向上	民間企業との共催や巡回展の誘致も含めたメリハリのある魅力的な企画展の開催	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	
			② 教育普及事業参加者数	人	55,000	63,206	55,000						教育普及参加者数の向上	教育普及事業の充実・学校教育連携の強化		
			③ 来館者満足度	%	95	99	95						来館者満足度の向上	調査研究の成果を活かした展示の実施による入館者満足度の水準確保		
	19 土屋文明記念文学館	文化振興課	① 入館者数	人	35,000	32,149	35,000	63,644	63,644	・第104～107回企画展(年間計4回)を開催した。 ・特に、第105回みんなの「ごんぎつね」展は、親子で楽しめるイベントを多数開催して好評だった。また、第106回 萩原恭次郎生誕120年記念展は、前橋文学館とのコラボレーション企画で新たな来館者層の拡大を図ることができた。 ・今後も来館者目線で、より魅力的な展示を実施していく。	4 継続	本県にゆかりのある文学者及び文学の魅力を県内外に発信し、文学に親しんでいただけるよう、毎年4回の魅力ある企画展を開催するとともに、記念講演等、様々な関連イベントを実施している。	入館者数の向上	民間企業との共催や巡回展の誘致も含めたメリハリのある魅力的な企画展の開催	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	
			② 教育普及事業参加者数	人	19,000	15,085	19,000						教育普及参加者数の向上	教育普及事業の充実・学校教育連携の強化		
			③ 来館者満足度	%	95	95	95						来館者満足度の向上	調査研究の成果を活かした展示の実施による入館者満足度の水準確保		

魅せる群馬の文化発信プランー第2次群馬県文化振興指針ー2018年度～2022年度 評価シート一覧(令和元年度事業評価用)

プロジェクト名	主な事業	所属	成果(結果)を示す目標・指標	単位	2019目標	2019実績	2020目標	2019決算額(千円)	2019事業結果	来年度事業評価	事業の目標	事業のアウトカム(成果)	事業のアウトプット(結果)	基本理念	審議会評価	審議会意見
	20 県民会館運営	文化振興課	① 施設利用者数	人	300,000	300,336	300,000	128,079	新型コロナウイルスの影響により2月下旬以降の利用がほとんどなくなったにもかかわらず、それまでの管理運営業務の成果により、目標を上回る実績を得ることができた。 利用者アンケート等で見られる改善要望の多くは、駐車場不足や建物内の段差など、短期間では解消できないハード面の問題によるものであるため、当面は運営の工夫などソフト面による対策が課題である。	4 継続	群馬県民会館は、県民への優れた芸術を鑑賞する機会の提供と個性豊かな群馬の文化づくりをとおして、県民の創造的な文化活動を支援し、群馬県の文化の発展と明るく潤いと活力に満ちた県民生活の実現に寄与するために設置している。 また、同施設の管理業務を効果的かつ効率的に行うため、指定管理者制度を導入している。	施設利用者数の増加	各種広告媒体を利用した広報の実施	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備		
		② 施設稼働率	%	57.0	58.7	57.0	施設稼働率の向上					プロモーター等に対する利用促進の働きかけ				
		③ 利用者満足度(「やや良い」以上の割合)	%	70.0	88.4	70.0	利用者満足度の向上					利用者満足度調査の実施、結果の分析及び施設管理や事業への反映				
06 文化を活かした地域づくり																
(1) 伝統文化を活かした地域づくり																
	21 伝統文化継承事業	文化振興課	① 「群馬のふるさと伝統文化」支援事業補助金の採択件数	件	40	36	40	4,894	・地域の伝統文化を守り、伝え、育てていこうとする継承活動を行っている県内団体に対して支援した。 ・39件の応募があり、36件を補助事業として採択。補助金確定額は4,894千円。応募件数は前年度より減少しているため、より幅広い周知を行う必要がある。 ・21件が新規採択。	4 継続	各地域固有の伝統文化(民謡・民舞、神楽、歌舞伎、人形芝居、祭り囃子その他の伝統芸能及び地域の年中行事等)の適切な保存、継承及び発展を図り、伝統文化を通じて住民同士が交流を深めることで、地域の活性化につなげる。	担い手の高齢化や道具の老朽化等、活動の継続を難しくしている環境の改善	「群馬のふるさと伝統文化」支援事業補助金の実施	5 文化資産の保存及び活用	C	・新型コロナウイルス感染症の影響で、伝統文化の継承や、存続が難しくなっている文化団体も出てきており、危機感を持っている。 ・高齢日本、特に新型コロナウイルス感染症禍においては、国、県、市町村の施策やアシストより、地域の相互扶助や支え合いが重要視されてくるのではないかと。その場合、地域住民が一致団結して集まるためには、地域の歴史・文化や伝統文化など、きっかけとなるものが必要である。障害者・高齢者・外国人のことも含め、将来への変革と基盤整備という面で、地域のみならずやっつけていくというの中核的な部分であり、行政と県民で真剣に考える必要がある。
		② 県内伝統文化の継承件数	件	620	571	620	県内伝統文化の継承件数の維持					伝統文化継承モデル事業の開催				
(2) 「群馬の文化」を活かした地域づくり																
	22 文化づくり支援事業	文化振興課	① 「群馬の文化」支援事業補助金採択件数	件	20	13	20	4,025	・「群馬の文化」支援事業補助金について、22件の応募があり、文化づくり支援事業及び群馬の文化応援事業評価委員会の審査を経て13件(いずれも文化力向上事業)を採択し、「群馬の文化」の形成につながる地域での多様で創造性豊かな文化活動を支援した。 ・今後の課題として、新型コロナウイルス感染拡大の関係で、イベント等の実施が延期・中止となる中、支援のあり方について検討する必要がある。	5 継続(見直しあり)	多様な創造活動への支援を通じて、文化を活かした個性豊かで活力ある地域づくり、文化力の向上、次世代を担う子どもたちが文化芸術に触れる機会の充実、地域の文化資産を活かした観光・地域振興	文化団体等が実施する本県の文化力の向上に資する新たな取組や事業を拡大する取組、子どもたちが多彩な優れた芸術に親しむ機会を充実させる取組、地域の文化資産を活かした観光・地域振興につながる取組の支援	「群馬の文化」支援事業補助金による支援	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備／3 県民の文化活動への支援体制の充実／4 文化の継承及び発展を担う人材・団体の育成／5 文化資産の保存及び活用	C	・公募型助成であり、団体が主体となって、自分たちで事業を進めていくことを後押しする枠である。群馬県というローカルのエリアで、人々が結束し、文化を媒介にしてコミュニケーションを行っていくことを促進させるという意味で今後ますます重要な枠組みとなってくる。
		② 「群馬の文化」支援事業補助金交付額	千円	—	3,942	—	地域の文化を磨き上げ、県内外に本県特有の文化の魅力を発信し、人を呼び込み、レガシーと成り得るものであり、かつ、継続性がある大規模な事業展開が見込める事業への支援					魅せる群馬の文化応援事業補助金による支援				
	23 魅せる群馬の文化応援事業	文化振興課	① 魅せる群馬の文化応援事業補助金交付件数	件	4	4	—	8,670	・魅せる群馬の文化応援事業補助金について、昨年度採択した4件の事業に引き続き支援した。 ・いずれの事業も、地域の魅力を発信し、交流人口の拡大を図る事業の土台づくりができた。 ・今後も各地域で安定して事業を継続するための情報交換を行っていきたい。	1 廃止・休止・終了	地域の文化資産を活用して本県特有の文化の魅力を県内外に発信し、交流人口の拡大を図る。	地域の文化を磨き上げ、県内外に本県特有の文化の魅力を発信し、人を呼び込み、レガシーと成り得るものであり、かつ、継続性がある大規模な事業展開が見込める事業への支援	魅せる群馬の文化応援事業補助金による支援	5 文化資産の保存及び活用	・まだ埋もれている生活の中にある文化資産を掘り起こし、食文化や良く知られている文化と絡め合わせて紹介すれば、群馬の魅力をアピールでき、人を呼び込むことにつながるのではないかと。	
		② 魅せる群馬の文化応援事業補助金交付額	千円	—	8,670	—										

魅せる群馬の文化発信プランー第2次群馬県文化振興指針ー2018年度～2022年度 評価シート一覧(令和元年度事業評価用)

プロジェクト名	主な事業	所属	成果(結果)を示す目標・指標	単位	2019目標	2019実績	2020目標	2019決算額(千円)	2019事業結果	来年度事業評価	事業の目標	事業のアウトカム(成果)	事業のアウトプット(結果)	基本理念	審議会評価	審議会意見			
07 文化活動における多様な参画の促進																			
(1)障害のある人の参画の促進/高齢者の参画の促進/外国人の参画の促進																			
24 障害者週間記念行事 / 精神障害者社会参加推進事業	障害政策課	①	「障害者作品展」への出品数	点	320	259	320	474	障害者作品展を令和元年12月5日(木)から12月9日(月)までの5日間の日程で開催した。また、こころのふれあいバザー展を令和元年9月7日(土)に開催した。今後はより多くの方に参加いただけるよう周知方法を検討する。	4 継続	障害のある人が文化活動を通じてそれぞれの個性を発揮し、社会への参加や自己実現につなげていける環境づくり	障害のある人に対する県民の理解と認識を深める。	障害者作品展の開催 こころのふれあいバザー展の開催	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	C	・多様な人々への文化面の働きかけについての項目。国レベルでも社会的包摂をどう捉えるかということが、重要なテーマとなっており、プロジェクト06と合わせプロジェクト07の項目は、今後重要性を増してくる項目である。			
			②																
			③																
25 高齢者の文化活動の充実	介護高齢課	①							R元.11.15 第45回群馬県老人クラブ連合会芸能発表大会 開催 ※ときめきフェスティバルに関しては、R2.3.14～17に開催予定だった「美術展」「俳句大会」「長寿社会・私のメッセージコンクール表彰式」等、一般来場者が訪れる催しを、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止したが、以下のとおり多数の作品の応募があった。 ・美術作品:115作品 (日本画14、洋画28、彫刻10、工芸19、書13、写真31) ・俳句:1,099作品 ・メッセージコンクール作文:2,393編	4 継続	ぐんまときめきフェスティバルや群馬県老人クラブ大会といった文化活動等の発表の場を設けることにより、高齢者の生きがいと健康づくりを推進する。	県老人クラブ大会への出場を楽しみのひとつとして、地域での文化活動等を行う。	群馬県老人クラブ連合会と連携し、大会を適切に開催	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	C	・多様な人々への文化面の働きかけについての項目。国レベルでも社会的包摂をどう捉えるかということが、重要なテーマとなっており、プロジェクト06と合わせプロジェクト07の項目は、今後重要性を増してくる項目である。			
		②	ときめきフェスティバル来場者数	人															
26 外国人の参画の促進	ぐんま暮らし・外国人活躍推進課	①	医療通訳ボランティア養成件数	件	15	9	15	16,361	・医療通訳ボランティアを養成し、派遣を行った。 ・R1.7.1ぐんま外国人総合相談ワンストップセンターを設置し、外国人県民からの生活相談を受け、また、生活に必要な情報を発信する体制を整えた。 ・災害時の外国人住民支援のための訓練を実施した。	5 継続(見直しあり)	外国人住民の自立と社会参画を進めるための環境を整備する	外国人住民の受診環境の整備	医療通訳ボランティアの養成及び派遣	6 情報の発信及び文化交流の促進	C	・多様な人々への文化面の働きかけについての項目。国レベルでも社会的包摂をどう捉えるかということが、重要なテーマとなっており、プロジェクト06と合わせプロジェクト07の項目は、今後重要性を増してくる項目である。			
		②	相談件数	件		732													
		③	災害時多言語支援センター設置運営訓練	件	50	50	50												